

発達障害支援の地域連携に係る全国合同会議

発達障害の可能性のある 児童生徒等に対する支援事業

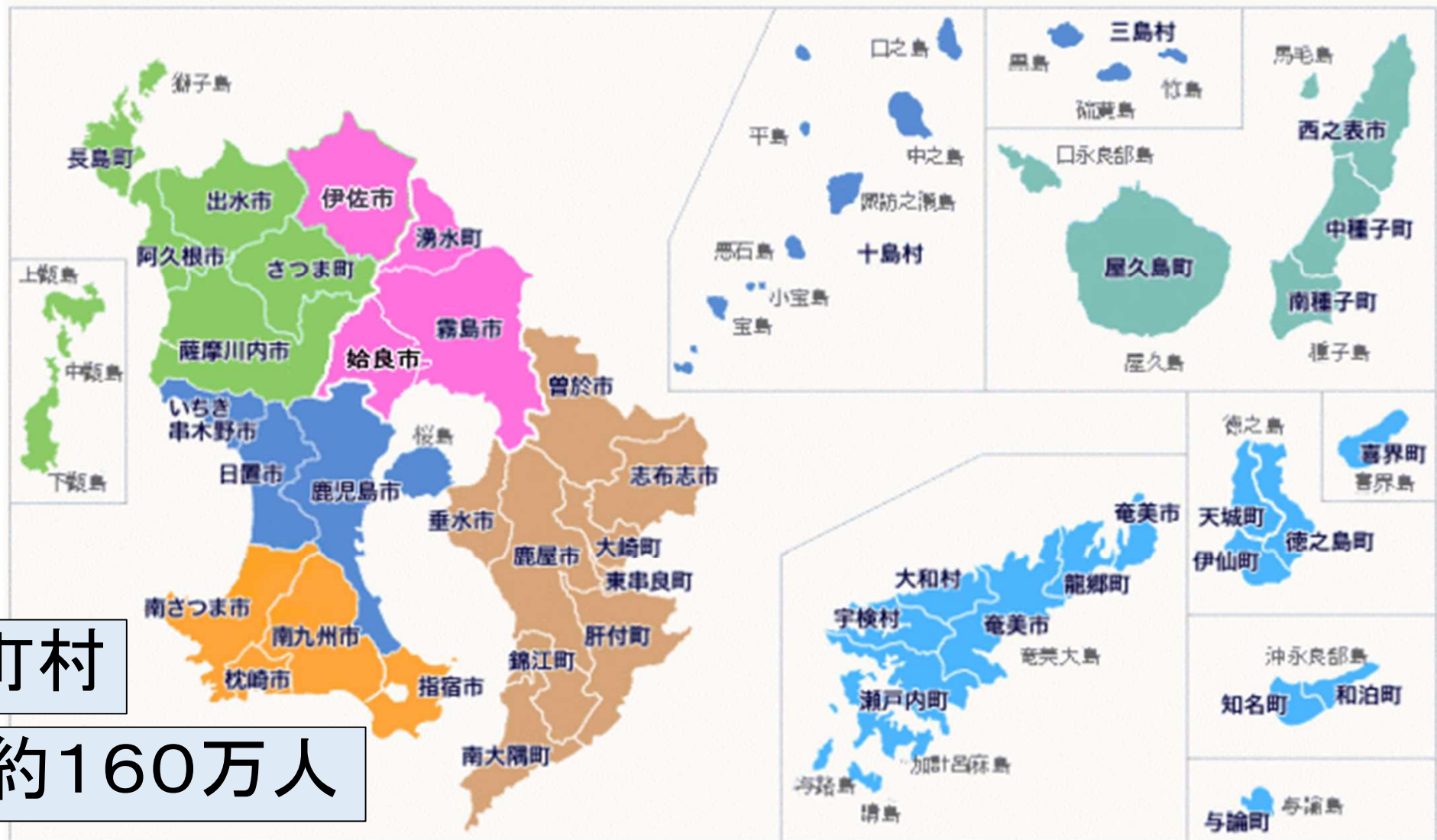
(発達障害の可能性のある児童生徒の多様な特性に応じた合理的配慮研究事業)



鹿児島県教育委員会



鹿児島県 南北600kmの教育



43市町村

人口: 約160万人

鹿児島県 南北600kmの教育

公立小学校	: 502校 <small>(分校含む)</small>	89,169人
公立中学校	: 214校 <small>(分校含む)</small>	42,417人
義務教育学校	: 3校	641人
公立特別支援学校	: 16校	2,313人
公立高等学校	: 68校	31,364人

- 合理的配慮の提供に向けて取り組む必要性
 - 周知及び好事例の収集・発信, 体制整備等

報告内容

- 1 合理的配慮研究事業に取り組む背景(課題意識)
- 2 合理的配慮研究事業における取組の概要について
- 3 高等学校における就職支援の充実を目指した取組
- 4 高等学校における就職支援 ～ 現段階での成果と課題, 今後の展望について

1 合理的配慮研究事業に取り組む背景（課題意識）

(1) 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」の施行

(2) 支援を必要とする児童生徒数の増加

(3) 支援が必要な幼児児童生徒に対する就学前から高校卒業後までの一貫した支援の充実
→ 「切れ目ない支援体制」の構築

1 合理的配慮研究事業に取り組む背景(課題意識)

(1) 「障害者差別解消法」の施行

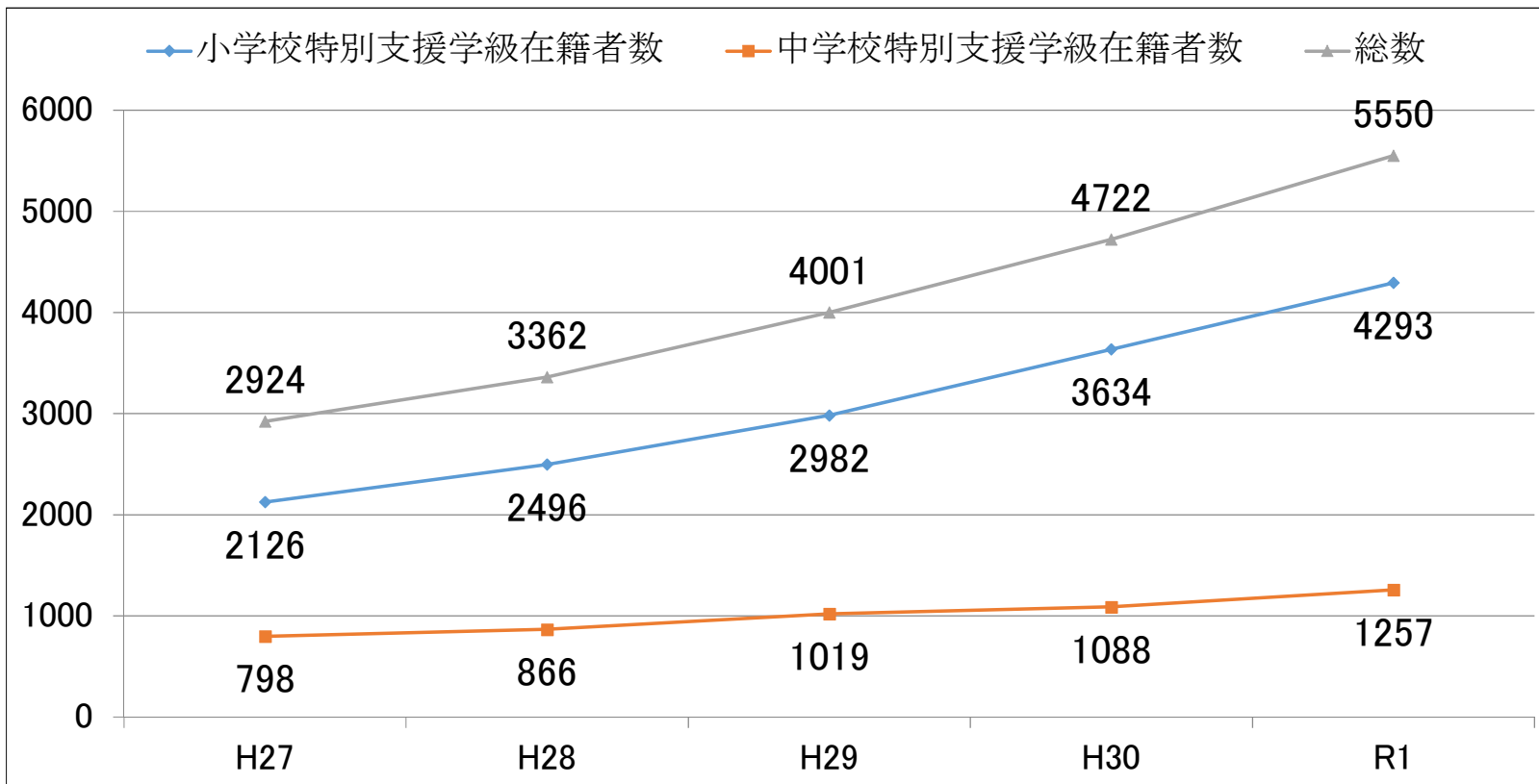
- ア 「鹿児島県教育委員会対応要領」の策定(H28.3.31付け)
- イ 県内4教育事務所に「合理的配慮協力員」の配置(H28年度)
 - 「障害者差別解消法」の周知及び相談対応の充実
- ウ すべての教育事務所, 市町村教育委員会,
県立高等学校への県教委訪問(H28年度)
 - H29年度～R1年度
小学校11校, 中学校12校,
高等学校15校 合計 38校訪問
- エ 理解啓発資料の作成, 活用



1 合理的配慮研究事業に取り組む背景(課題意識)

(2) 支援を必要とする児童生徒数の増加

鹿児島県における特別支援学級在籍児童生徒数の推移



公立学校の通常の学級に在籍する者のうち、支援が必要な児童生徒数(H30)

- 通級による指導
... 1,287人
- 通常の学級のみ
... 7,225人
- 特別支援学級
... 4,722人
- 高等学校
... 921人

合計 13,234人
(全児童生徒数の8.6%)
(小中の場合...10%)

1 合理的配慮研究事業に取り組む背景(課題意識)

(3) 「切れ目ない支援体制」の構築

移行支援シートとは

就学や進学等に当たって、幼児児童生徒の情報をコンパクトにまとめ、焦点化して就学(進学)前の学校や園等から就学(進学)後の学校や就職先へ引継ぎ、受入れ等の準備を進めるために活用するもの。



項目	支援度	主に幼稚園・保育所等で行ってきた配慮・支援
健康・身体機能		
① 健康面に関する配慮	◎	○ 特に記入なし。
② 見え	◎	
③ 聞こえ	◎	
④ 姿勢保持	◎	
⑤ 移動	◎	
⑥ 手指の動き	◎	
⑦ その他()	◎	
周辺処理・生活		
① 食事	○	① 偏食の傾向があり、食べることに集中できないところがあるが、教師が近く座り、言葉掛けすると落ち着いて食事に臨むことができ、苦手なものも少しずつ食べようとする。
② 排せつ	◎	
③ 衣服の着脱	○	⑥ 一日の流れや活動内容を絵カードで示し、説明することで、活動の切り替えがスムーズにできる。
④ 片付け	○	
⑤ 用具の使用・活用	○	
⑥ その他(スケジュールの理解や変更)	○	

項目	支援度	主に幼稚園・保育所等で行ってきた配慮・支援
興味・関心等		
得意なこと 好きな遊び		<ul style="list-style-type: none"> 粘土や砂場遊びなどイメージを形にすること 手伝いや当番活動
苦手なこと 嫌いな活動		<ul style="list-style-type: none"> 教師も一緒に遊び、イメージを共有できるようにした。 達成できたときは、特に多くの言葉を掛け、褒めることを大切にした。
		<ul style="list-style-type: none"> 鉄棒やプール 集中して取り組むこと
		<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカの練習等、長時間にならないように○分程度と決めて取り組む工夫をした。また、活動の前後に好きなことができる時間を十分とるようにした。

1 合理的配慮研究事業に取り組む背景(課題意識)

(3) 「切れ目ない支援体制」の構築

入学時における移行支援シート等による引継ぎの状況

項 目		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	前年度比
小学校が 受けた 引継ぎ	引継ぎを受けた 学校数(校)	221/518 (42.7%)	260/513 (50.7%)	275/506 (54.3%)	305/505 (60.4%)	+30 (+6.1%)
	引継ぎ人数(人)	642/1312 (48.9%)	805/1564 (51.4%)	911/1799 (50.6%)	1342/1981 (67.7%)	+431 (+17.1%)
中学校が 受けた 引継ぎ	引継ぎを受けた 学校数(校)	154/224 (68.8%)	157/221 (71.0%)	163/221 (73.8%)	170/216 (78.7%)	+6 (+4.9%)
	引継ぎ人数(人)	357/862 (41.4%)	416/985 (42.2%)	485/1037 (46.8%)	657/1257 (52.3%)	+172 (+5.5%)
高等学校 が受けた 引継ぎ	引継ぎを受けた 学校数(校)	調査開始 (H29年度~)	23/68 (33.8%)	36/68 (53.0%)	34/68 (50.0%)	-2 (-3.0%)
	引継ぎ人数(人)		56/294 (19.0%)	112/351 (31.9%)	118/432 (27.3%)	+6 (-4.6%)

2 合理的配慮研究事業における取組の概要について

《目的》 合理的配慮の提供の充実と一貫した支援体制づくり

《合理的配慮の提供の充実につながる取組》

合理的配慮に関する理解啓発

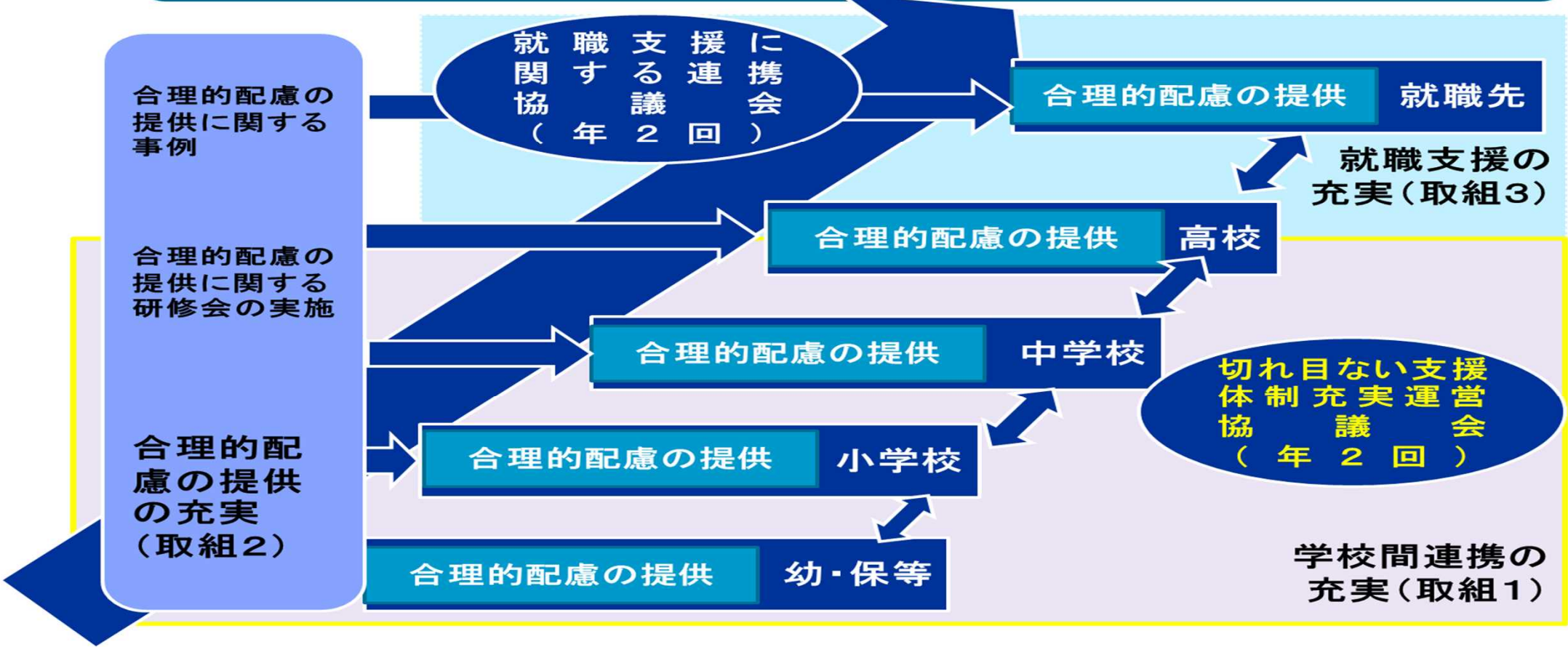


一貫した支援体制の充実

(各学校段階において提供されてきた合理的配慮の内容を含む指導・支援の経過を共有し、進学・就職先等における児童生徒の特性や障害の状態等に対するよりよい理解につなげるための取組)

2 合理的配慮研究事業における取組の概要について

切れ目ない支援の充実



2 合理的配慮研究事業における取組の概要について

(1) 学校間連携の充実に関する取組

目的： 学校間の引継ぎに関する取組について整理，発信するとともに，「移行支援シート」等の活用を促進するなど，特別な支援が必要な児童生徒に対する就学前から高校卒業後までの一貫した支援の充実を図る。

切れ目ない支援体制構築充実運営協議会の開催

巡回相談等を活用した学校間連携の事例収集

「移行支援シート」等を活用した引継ぎに関する理解・啓発の推進

モデル地域における学校間の引継ぎに関する事例の発信

高等学校における特別支援教育の現状把握

2 合理的配慮研究事業における取組の概要について

(2) 合理的配慮の提供に関する事例収集・情報発信

目的： 学校における合理的配慮の事例を収集し，整理発信するとともに，県下の学校において合理的配慮の提供が適切になされるように努める。

研究協力校(特別支援学校)による事例収集及び助言

研究指定校(小・中・高)6校における合理的配慮の提供の充実

「障害者差別解消法」の周知のための学校訪問

合理的配慮の提供に関する理解促進を図る教育講演会の開催

読み書き困難な児童の実態把握と具体的な支援に関する取組の推進

高校における特別支援教育に対する理解・啓発のための取組

2 合理的配慮研究事業における取組の概要について

取組(1)及び(2)における関係機関との連携の推進

運営協議会

大学

福祉部局

幼・保等

研修機関

親の会

医療関係

相談機関

その他

特別支援学校

小学校等



中学校等



高等学校

児童発達支援事業所

発達支援センター

基幹相談支援センター

障害者職業センター

障害者就業・生活支援センター

その他(大学・児相等)

2 合理的配慮研究事業における取組の概要について

取組(1)及び(2)における関係機関との連携(よさと難しさ)

行政にとって

- 運営協議会の中で、様々な角度からの意見をもらうことで、教育の施策に生かすことができる。
- 学校だけで解決できない場合を想定した対応の方向性を示すことができる。
- 関係機関との連携がとりやすい地域ととりにくい地域がある(地域差への対応)。
- 同じような目的をもって開催される会議等との役割分担, 若しくは連携を図ることの難しさがある。

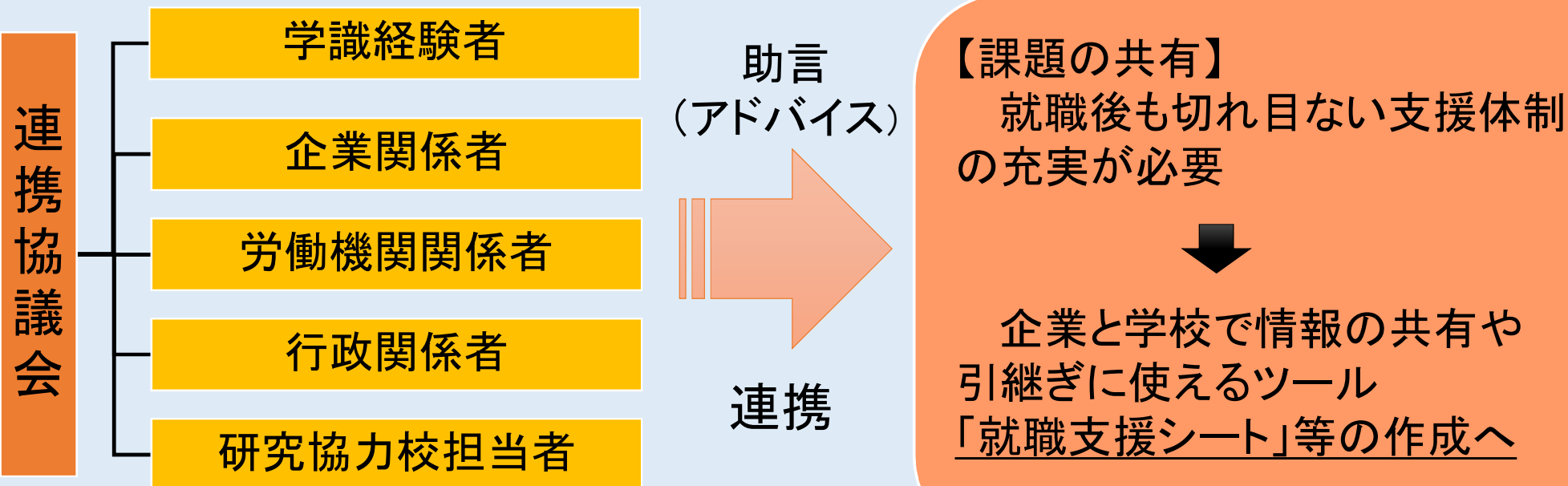
学校, 本人, 保護者にとって

- 学校で把握していない情報や違う視点からの支援のヒントが得られ, 支援の充実につながる。
- 学校在籍時に目立たなかった育ちの部分の背景を, 幼少期の育ちの情報から整理することができる。
- ケース会議等で情報を共有し, 役割分担をして対応することで, 本人にとって安心できる環境をつくることにつながったり, 学校場面と生活場面, 家庭生活場面の充実が図られたりする。
- 本人, 保護者にとって, 相談できる人や場が増える。
- 関係機関ができることや相談窓口についての情報が少ない(連携前の課題)。
- 学校と関係機関の相互理解の構築や保護者の同意を得ること(連携前の課題)。

3 高等学校における就職支援の充実を目指した取組

就職支援に関する連携協議会の開催

目的: 支援が必要な高等学校生徒の就職支援の充実



3 高等学校における就職支援の充実を目指した取組

「就職支援シート」等の作成

支援を必要とする生徒が、就職先でも継続した支援が受けられるよう、必要な支援事項を就職先に伝えることを目的とした「就職支援シート」等を作成

「つなぐ」ためのシート作成に当たり「自己理解」が重要

「自分の得意・不得意気づきシート」



「自分のことを伝える」ために、できること、できないことを整理

「サポートシート」



企業に必要な情報を伝えるためのツール

「就職支援シート」



3 高等学校における就職支援の充実を目指した取組

「自分の得意・不得意 気づきシート」

「サポートシート」や「就職支援シート」を作成するにあたり、自分の得意なことや不得意なことを整理して確認し、定期的な活用を通して、自分自身の成長や変化に気付くことができるようにするためのシート

自分の得意・不得意 気づきシート

このシートは、生徒が自分の得意なことや、配慮してもらえばできるようになることに気づき、自己理解を深める手掛かりになるように作成しました。これを活用して、「サポートシート」や「就職支援シート」を作成しましょう。

【記入例】

○年 ○組 ○○番 名前 ○○ ○○

①～⑯の質問を読んで、当てはまる数字に○を一つ付けてください。
今までの学生生活を振り返って(友人や先生に指摘されたことも含めて)答えてください。

		1 とても得意	2 まあまあ得意	3 少し苦手	4 とても苦手
日常生活に関すること	① 約束の時間に遅刻しないようにすること。	1	②	3	4
	② もらったプリントをなくさずに持っていること。また、忘れ物をしないこと。	1		③	4
	③ 起床、食事、睡眠などのリズムを整え、規則正しく生活すること。			3	4
	④ 規則や決められたことを守ること。			3	4
	⑤ 健康に気を付け、良好な体調を保つこと。	①	2	3	4
	⑥ 場に合った服装をし、シャツを入れるなど身だしなみを整えること。	1	②	3	4
	⑦ 休日の勉強や外出、習い事などの計画を立てること。			③	4
	⑧ 自分が立てた計画を状況に合わせて修正し、対応すること。			③	4
	⑨ 買い物の際、おつりの計算をすること。	1	2	③	4
		1 とても得意	2 まあまあ得意	3 少し苦手	4 とても苦手
作業	⑩ 部品を組み立てるなどの作業を正確にすること。	①	2	3	4
	⑪ 指示された作業が終わったとき、終了の報告をし、次は何をすれば良いかを尋ねること。	1	2	3	④
	⑫ 決められた時間内に作業をすること。	1	2	③	4

考えすぎず、自分で一番近いと思うものに○を付けてください。

質問の内容がよく分からないときは、先生に相談してください。

3 高等学校における就職支援の充実を目指した取組

「自分の得意・不得意 気づきシート」の活用事例 (A 高校)

【生徒の実態】

- 支援が必要な生徒の入学増
- 経験の少なさ, 自信のなさ, 自己肯定感の低さ



【学校の取組】

- 「できた」「できるようになった」経験を積み重ねる
- チャレンジする機会を増やす

LHRで「自分の得意・不得意
気づきシート」を活用

- できるようになったことが目に見えて確認できる。
- 本人を励ましたり自己肯定感を高めたりするきっかけづくりに役立っている。

3 高等学校における就職支援の充実を目指した取組

「サポートシート」

「就職支援シート」を作成するにあたり、自分のよさやセールスポイント、力を発揮するために支援してほしい事項などを、生徒自身がまとめるためのシート

サポートシート

「就職支援シート」を作成する際は、自分の特徴やセールスポイント、仕事をする上での課題、その対処法（自分でできること、職場の人や周囲の人をお願いしたいこと）など、生徒本人が主体的に考える機会を設け、生徒と一緒に「サポートシート」にまとめましょう。生徒自身の気づきを促すことが大切です。

【記入例】

自分の特徴	
得意なことや強さ	不得意なことや弱さ
自分の得意なことや、セールスポイントなどを記入します。	自分の不得意なことや、仕事をする上での課題などを記入します。
力を発揮するために・・・	
サポートが必要な場面	サポート
<ul style="list-style-type: none"> 言葉での説明だけでは、理解が難しく、メモをとることも苦手です。 推測することが苦手なため、あいまいな言葉での指示は、戸惑ってしまいます。 	<ul style="list-style-type: none"> やり方の手本を示しながら、ゆっくり説明してもらえると、理解できます。 ホワイトボード等に要点を書いて説明してもらえると、より分かりやすいです。 手順を簡単に短い言葉で書いたものがあれば、自分で確認しながら仕事を進めることができます。 指示を出すときは、できるだけ具体的に伝えてもらえると、仕事への取組がスムーズになり、正確に作業ができます。 (例)「だいたいのところまで」→「赤線のところまで」 「2時まで」「3個ずつ」「100gずつ」 「きちんと並べて」→「同じ向きに並べて」
想定される支援が必要な場面と、職場の人や周囲の人にどんな配慮してもらえばできるようになるかを具体的にまとめ、記入します。	

3 高等学校における就職支援の充実を目指した取組

「自分の得意・不得意 気づきシート」と「サポートシート」等の活用事例 (B高校)

【インターンシップに向けて】

「自分の得意・不得意気づきシート」をもとに、「サポートシート」を作成

家庭

保護者の協力の下、「自分の得意・不得意 気づきシート」作成

学校

「サポートシート」を作成

自分のよさや課題の整理

力を発揮するための支援とは

本人・保護者の了解を得てインターンシップ先へ

企業

仕事内容や環境を整備 (合理的配慮)

3 高等学校における就職支援の充実を目指した取組

「就職支援シート」

就職した際に、職場の人や周囲の人をお願いしたい支援事項をコンパクトにまとめ、事前に就職先に伝えるためのシート
(インターンシップ先でも活用)

就職支援シート

高校卒業後、就職先でも必要な支援が継続して受けられるように、生徒と一緒に「就職支援シート」を作成し、就職先に引き継ぎましょう。また、関係機関と連携して支援している事項についても、確実に就職先に伝えましょう。

【記入例】

作成日 年 月 日

プロフィール			
ふりがな	性別	生年月日	平成 年 月 日
氏名			
住所	〒 -		連絡先
保護者			緊急時連絡先
出身高校			卒業時の担任
将来の生活についての希望	<input type="radio"/> 同じ職場で長く働きたい。仕事のスキルアップを図りたい。 <input type="radio"/> 自分なりの楽しみや趣味をもち、余暇活動を充実させたい。		
必要な支援	<input type="radio"/> 言葉だけの説明では理解することが困難なので、やり方の手本を示したり、ホワイトボード等に要点を書いて説明してください。 <input type="radio"/> あいまいな言葉の指示では戸惑うことが多いので、できるだけ具体的に伝えてください。		
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 「サポートシート」にまとめた職場の人や周囲の人をお願いしたいことを、コンパクトにまとめて記入します。 </div>			
関係機関と連携した支援			
職業生活	家庭生活	地域生活	医療・健康
関○社 担当者： 連絡先： ・ 適性に応じた業務配置を行い、ジョブコーチ支援を活用し、職場での適応を図る。 ・ 定期的に担当者が面談し、心配事や不安を早めに解消する。	保護者 緊急連絡先： ・ 帰宅後の様子を見守り、仕事の様子や体調を把握する。調子に変化が見られたときは、○○に連絡をとり、相談する。	○○障害者福祉センター 担当者： 連絡先： ・ 地域の障害者福祉センターが行っているスポーツ・レクリエーション活動に積極的に参加し、自分なりの趣味をもち、余暇活動を充実する。	○○病院 担当者： ○○ 医師 連絡先： ・ 定期的（1か月に1回）に診療しながら、服薬の処方を行う。 ・ 体調等に変化が見られたときは、家庭に連絡をとり、職業生活・家庭生活面で

3 高等学校における就職支援の充実を目指した取組

「就職支援シート」の活用事例 ～チームでつなぐ、支援が必要な生徒の就職支援～

【生徒の実態】

高等学校3年生

コミュニケーション面で課題のある生徒

③ 上に書かれた項目以外で、特に得意だと思っていることや苦手だと感じていることがあれば、自由に記述してください。

【特に得意だと思っていること】

- 手芸など細かい作業ができる
- 球技が得意
- 嫌なことがあっても引きずらない。
- 相談にのること

【特に苦手だと感じていること】

- 人のペースに合わせること
- 文章をまとめられないこと
- 時間に追われること
- 自分の考えをまとめること
- 自分の気持ちを相手に伝えられない

自己理解を図るために、「自分の得意・不得意 気づきシート」を活用



自分の得意なことや苦手なこと
から、支援の必要性を自覚
「支援があれば、力を発揮できる」

3 高等学校における就職支援の充実を目指した取組

「就職支援シート」の活用事例 ～チームでつなぐ、支援が必要な生徒の就職支援～

校内で、管理職・担任・就職指導担当・学校適応委員会チーフなど複数でチームを組み、就職までをサポート

支援が必要な生徒であることを、企業に伝えるべきか？

伝えるとすればタイミングは？

企業の理解を得るためには？

就職に不利になるのではないか？

課題



3 高等学校における就職支援の充実を目指した取組

「就職支援シート」の活用事例 ～チームでつなぐ、支援が必要な生徒の就職支援～

【活用までの流れ】

- 1 本人・保護者に就職支援シートの説明及び使用の承諾後作成
- 2 学校から企業側へ就職支援シート使用の経緯等を説明
- 3 履歴書とは別に就職支援シートを送付
- 4 送付後学校から企業へ改めて電話で説明

作成日 平成30年 9月25日

プロフィール			
ふりがな	氏名	性別	女
		生年月日	平成12年 月 日
住所	〒891-4 鹿児島県	連絡先	099
保護者		緊急時連絡先	080-
出身高校	鹿児島県立	卒業時の担任	
将来の生活についての希望	・同じ職場で長く働きたい		
必要な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉で強く叱責されると萎縮し、自己の考えが言えなくなるところがある。柔和に説明すると冷静に判断できる。 ・相手に気を遣いすぎて質問できずに一人で考え込むことがあるので、本人の様子を見て、不安そうであれば声を掛けると疑問を解消できる。 ・作業等、与えられたことは確実にこなすが、コツをつかむまで少し時間が掛かる。 		
関係機関と連携した支援			
職業生活	家庭生活	地域生活	医療・健康

3 高等学校における就職支援の充実を目指した取組

「就職支援シート」の活用事例 ～チームでつなく、支援が必要な生徒の就職支援～

【ポイント】

- ☆ 校長のリーダーシップの下、チーム支援の体制を整え、取り組むことができた。
 - ☆ 学校と企業との関係を大切にしながら丁寧に説明をし、信頼関係ができた上で「就職支援シート」を使用することができた。
- ↓
- 丁寧な取組を進めることで、企業に安心感を与えることができた。
- ☆ 関係機関との連携を図ることで、外部の意見を参考に支援が必要な生徒の進路指導を進めることができた。

就職内定！

4 高等学校における就職支援 ～現段階での成果と課題、今後の展望～

成果と課題

【成果】

- 学校・企業・関係機関等が連携を図り「就職支援シート」等の様式作成をすることで、切れ目ない支援体制構築の重要性を共通理解できた。
- 研究協力校での実践を通して、活用法や課題等が明らかになった。
- 学校において、引継ぎの大切さを意識したり、就職支援の在り方について考えたりするきっかけとなった。

4 高等学校における就職支援 ～現段階での成果と課題，今後の展望～

「就職支援シート」等の活用を通して見えてきたこと(成果から)

【行政機関】

- 連携協議会の開催によって、様々な立場からの意見を得ることで、学校や企業、関係機関等のニーズを把握し、施策に生かすことができた。

【学校・本人・保護者】

- 校内での連携，関係機関との連携により，
 - ① 本人・保護者は就職への不安を解消し，就職活動に集中することができた。
 - ② 担任一人だけではなく，複数の教員や関係機関との情報交換により，生徒の進路選択の幅を広げることができた。

【企業】

- 事前に生徒の情報を得ることで，受入の準備を整え，安心して雇用することができた。

4 高等学校における就職支援 ～現段階での成果と課題、今後の展望～

成果と課題

課題

- 支援が必要な生徒の障害受容については、今後、学校での研修・取組を更に進める必要がある。(高等学校における特別支援教育の理解・啓発)
- 学校が企業への引継ぎを行う際のタイミングや方法については、慎重に検討する必要がある。
- 支援が必要な生徒の就職支援については、個別の対応が必要であることから、校内での連携体制を確立していく必要がある。

4 高等学校における就職支援

～現段階での成果と課題，今後の展望～

「就職支援シート」等の活用を通して見えてきたこと(課題から)

【行政機関】

- 高等学校生徒の就職に関するルールに照らした、「就職支援シート」等の活用スケジュールの整理
- 「就職支援シート」等についての企業等に対する周知

【学校・本人・保護者にとって】

- 校内における教師間の情報共有
- 本人及び保護者の障害の受容及びプライバシーに配慮した支援

【企業】

- 就職後の支援に関する関係機関との連携

4 高等学校における就職支援 ～現段階での成果と課題, 今後の展望～

今後の展望

支援が必要な生徒の就職の充実に向けて、啓発資料(リーフレット)を作成・配付

学校向けリーフレット(案)

高等学校における支援が必要な生徒の就職支援の充実に向けて

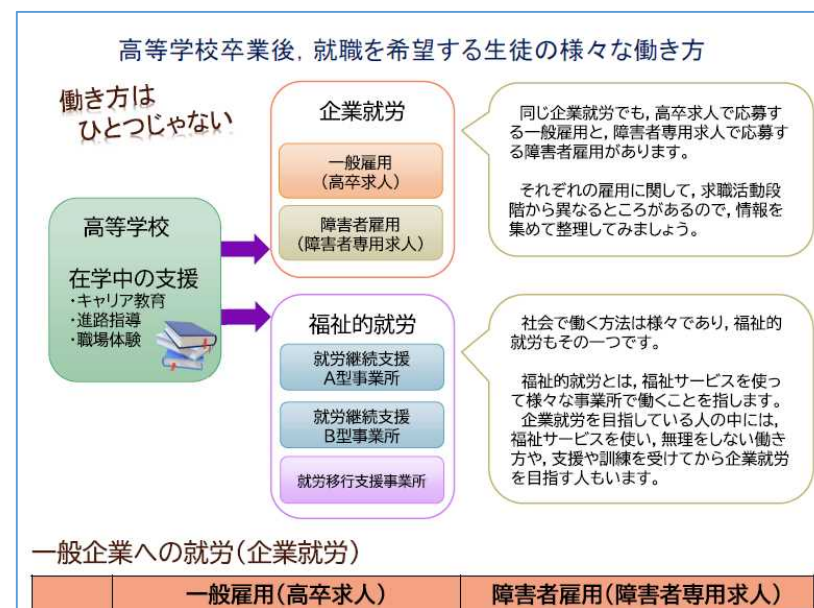
支援が必要な生徒が、社会に出た後も生き生きと自分らしく働き、よりよい社会生活の実現を図ることができるよう、在学中から卒業後まで切れ目ない支援体制を構築することが大切です。

鹿児島県教育委員会では、生徒の自己理解を深めるための「自分の得意・不得意気づきシート」や、自分の力を発揮できるように必要な支援をまとめる「サポートシート」、就職先でも継続して支援が受けられるよう、必要な支援事項を就職先に伝えるための「就職支援シート」等のツールを活用した取組を進めています。

令和2年3月
鹿児島県教育委員会



高等学校及び関係機関等に周知



ご清聴ありがとうございました



燃ゆる感動かごしま国体・全国障害者スポーツ大会マスコットキャラクター「ぐりぶーファミリー」

鹿児島県教育委員会

